

Vol.1 ～「生きる力」を育む学校教育の推進～

学校再編かわら版

今回のテーマ 生徒数の減少について

学校教育の目的は、子ども達に「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」をバランスよく育てること、変化の激しい社会を生き抜くための「生きる力」を育むことです。「生きる力」を育むためには、知識・技能だけでなく、仲間との交流や議論を通じて思考力や社会性を育てることが重要です。しかし、小規模校では人数の少なさが教育活動に制約を与えるため、一定の規模を確保し教育環境を充実させる必要があります。



学校の役割



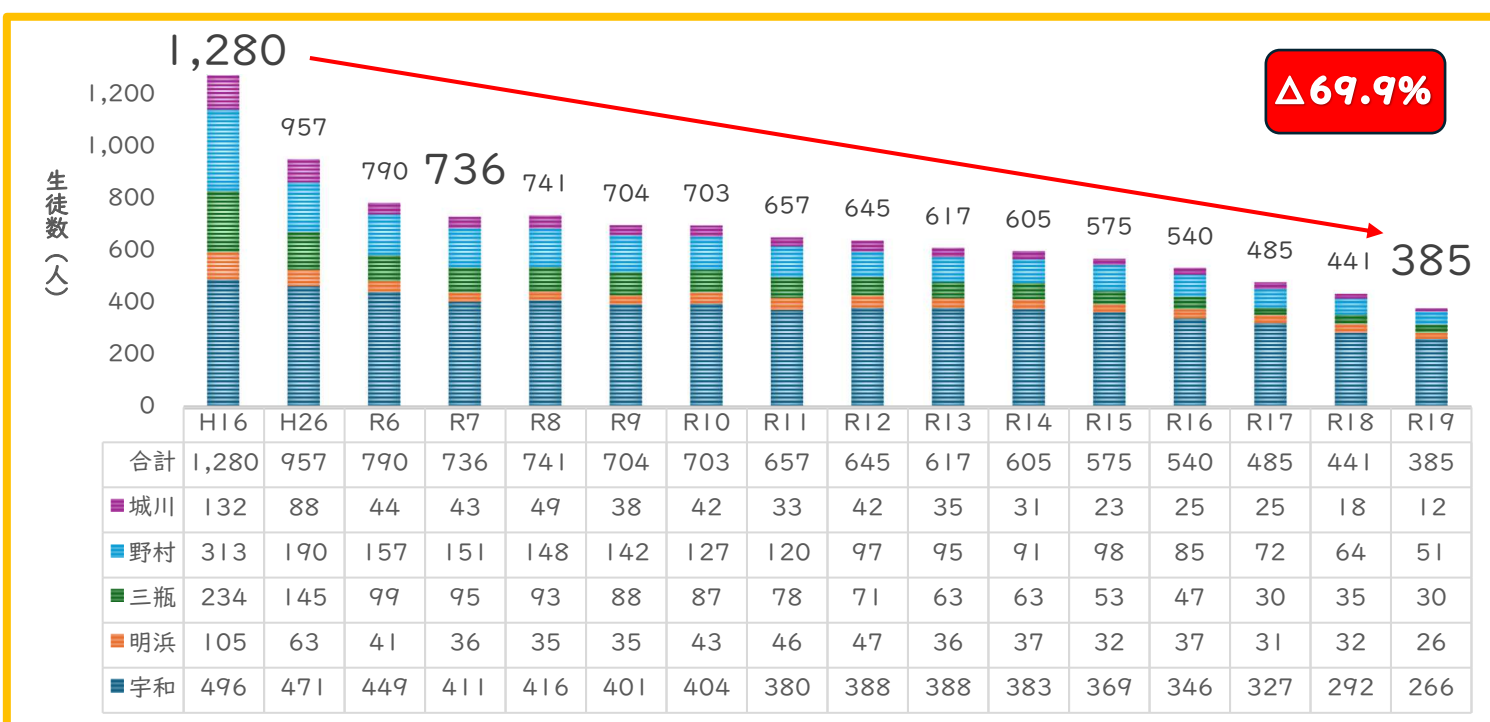
教育委員会からのお知らせ

西予市教育委員会では、生徒たちのより良い教育環境と望ましい学校教育の実現を目的として、学校適正配置を進めるための再編計画（素案）を策定しました。今後も、かわら版などの学校再編の情報をホームページに掲載していきます。



市内中学校生徒数の減少が止まりません

西予市教育委員会では、学校再編を市民の皆様にわかりやすくお伝えするため、“学校再編かわら版”を発行することにいたしました。今回のテーマは「生徒数の減少について」です。生徒数の減少は様々な影響を及ぼします。その影響を詳しく見ていきます。



全国的に少子化が進む中であって、西予市においても生徒の減少に伴い、中学校の小規模化が進行し、生徒の社会性を育むうえで重要な教育環境や学校運営などにおいて、様々な課題が表面化してきました。

上のグラフは、西予市内の生徒数を現したグラフです。過去20年間で比較すると、平成16年度時点で1,280人であった生徒数は、令和7年度現在で736人となっています。さらに現時点での市内出生状況から推計すると令和19年度には385人になる見込みであり、約70%の減少となります。

学校規模に起因する課題

人間関係

クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい

- ・友達づくりが広がらない
- ・人間関係につまずいた時の修復が難しい
- ・他の人の新たな個性が見出しにくい



教育活動

集団を前提とした授業・活動が難しくなる

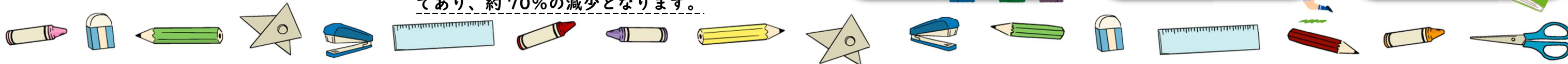
- ・授業の中で多様な意見や考え方が出にくい
- ・運動会で、集団競技やリレー競技を行いにくい
- ・部活動、委員会などの活動範囲が狭くなる

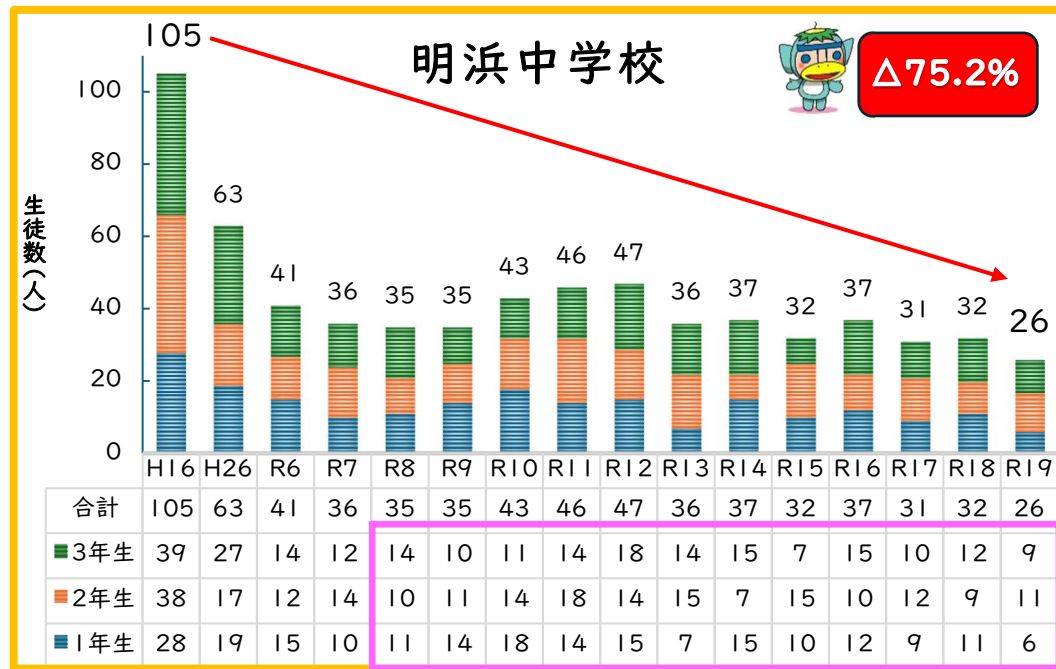
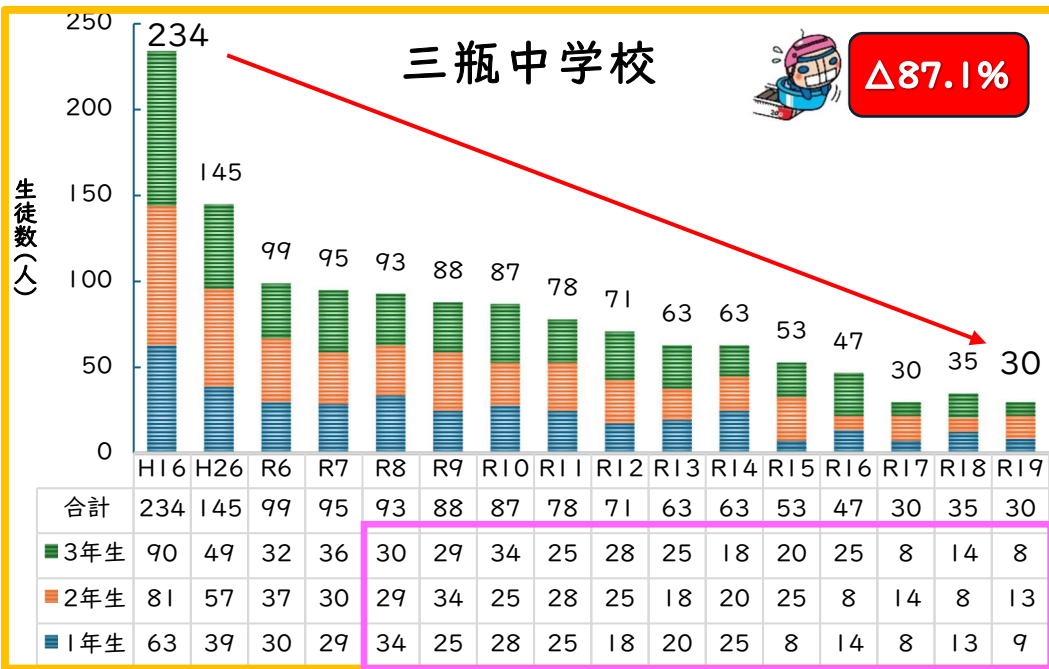


学校運営

教科研究や指導の充実のための十分な教員配置が難しい

- ・授業の進め方や学級運営などについて相談・情報交換できる相手が少ない
- ・教員の数が少ないため、緊急時の対応が難しくなる
- ・免許外教科担任による授業の質の低下





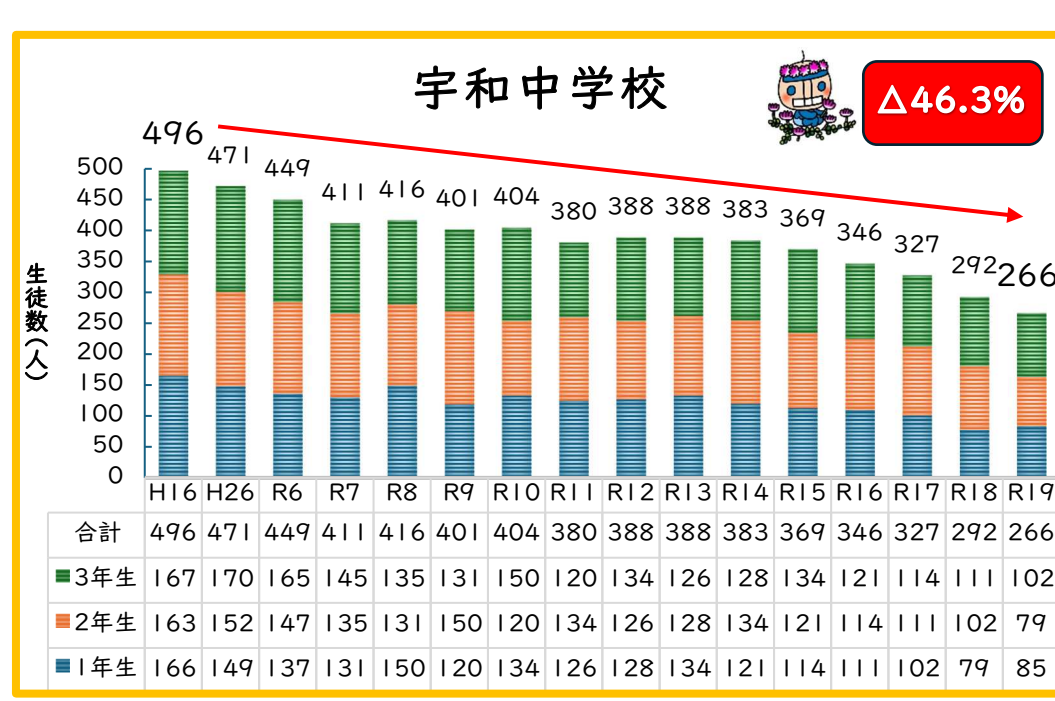
- ・ 出会いの機会の拡大により、多くの友人や刺激を得て、子どもたちの成長が促される。
- ・ 学校行事等の充実によって、協力や達成感を味わい、子どもたちの可能性が広がる。
- ・ 教員間の連携強化により、指導法の共有や意見交換が進み、学習指導の質が向上する。

一定規模の教育環境で期待される効果

適正規模校	小規模校	過小規模校
12学級以上	3学級以上	1学級以上
18学級以下	11学級以下	2学級以下

↑ 西予市合併時、234名だった三瓶中学校の生徒数は、令和19年度には30名となる見込みです。その減少率は、約87%となります。今後もクラス替えができない規模で推移していきます。

↓ 西予市合併時、313名だった野村中学校の生徒数は、令和19年度には51名となる見込みです。その減少率は、約84%となります。令和12年度からクラス替えができない学年が出てき始め、令和17年度からは全学年がクラス替えができなくなります。

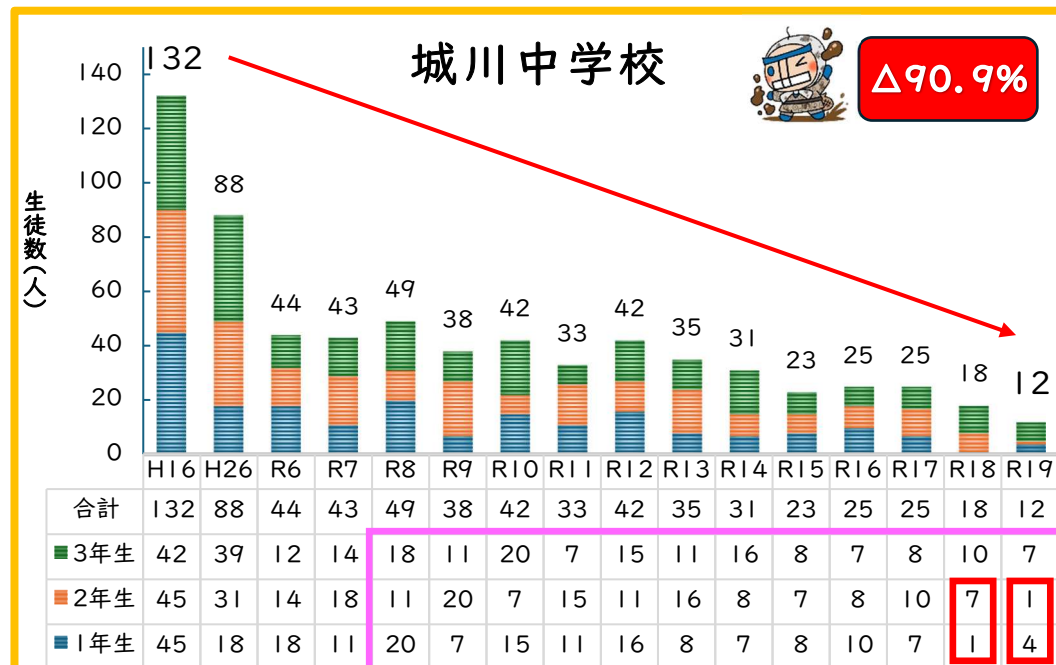
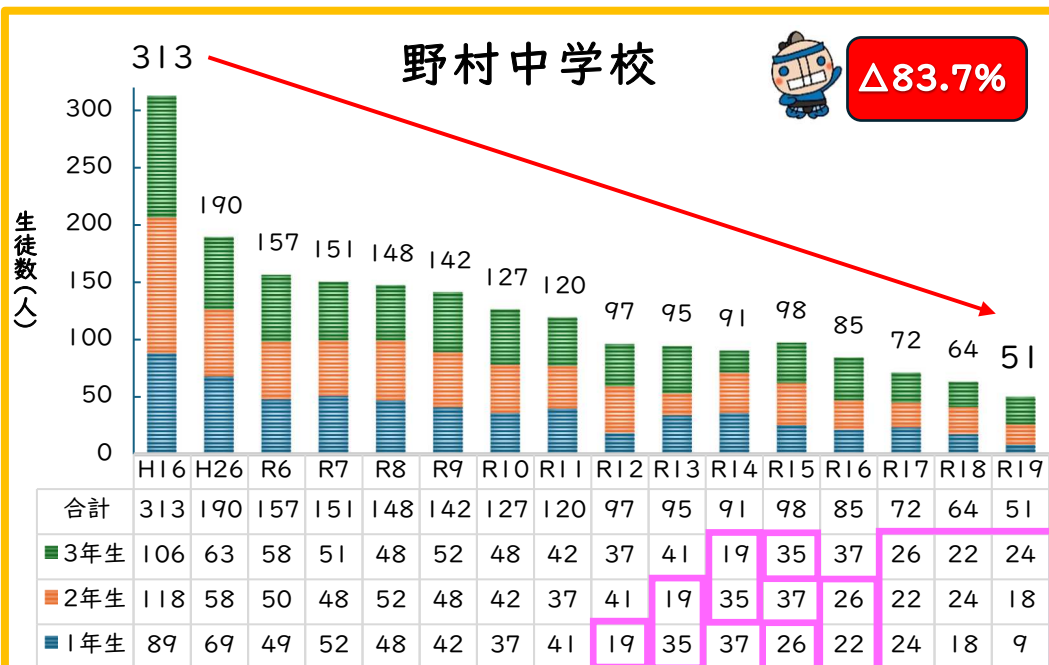


↑ 西予市合併時、105名だった明浜中学校の生徒数は、令和19年度には26名となる見込みです。その減少率は、約75%となります。今後もクラス替えができない規模で推移していきます。

← 西予市合併時、496名だった宇和中学校の生徒数は、令和19年度には266名となる見込みです。その減少率は、約46%となります。他校とは異なり、クラス替えができる規模の生徒数で推移していきますが、いずれは…ということが予測できます。

↓ 西予市合併時、132名だった城川中学校の生徒数は、令和19年度には12名となる見込みです。その減少率は、約91%となります。今後もクラス替えができない規模で推移していきます。

中学校の複式学級編成基準には「他の学年の生徒と合わせ8人までの時は、これをもって1学級を編成する」といった基準があります。この基準に照らし合わせると、令和18年度から城川中学校に複式学級ができる見込みとなっています。



もちろん、小規模校にも良さがあります。教職員一人ひとりの目が届きやすいことによるきめ細やかな指導、全校生徒間の交流が深まることによる一体感の醸成、教職員間で情報共有がしやすく学校運営の迅速化、地域との連携を活かした特色ある教育活動、一人の教員が複数の役割を担うことが多く、幅広い経験を積むことができます。



次回：生徒数の減少についての課題
施設の老朽化についての課題

